

# 県内ウナギ稚魚高騰

県内でウナギの稚魚(シラスウナギ)が3年連続不漁となる見込みとなり、取引価格が過去最高値を更新している。1月下旬からは1キ当りの価格が例年の7倍近い222万円(1匹約400円)まで高騰。高値のあまり落札できない養鰻(ようまし)業者は「現状が続けば廃業するしかない」と危機感を募らせる。今後、店頭価格への影響も予想されており、消費者のウナギ離れが懸念される。

県内水面振興センター(宮崎市佐土原町)などによると、今期(11~3月)のシラスウナギの取引価格は当初から1キ156万円と高騰し、1月下旬には過去最高の同2

## 最高値 1キ 222万円

### 養鰻業者「採算合わない」

22万円を記録した。例年なら2月以降は同30万円ほどに値が落ち着く時期。不漁だった前期、前々期も同じ時期の価格は同70万円ほどで、今期の高騰が際立っている。

不漁と価格高騰の影響で、全国3位の生産量を誇る県内養鰻業ではシラスウナギの導入口が遅れる業者も目立つ。同センターによると、県内産シラスウナギを確保できたのは県内の42養鰻業者のうち10業者のみ。不足分を補う県外、外国産も不漁や輸出規制の影響で高騰しているため、業者には導入費用が大きな負担となっている。

宮崎市佐土原町下田島の高政養鰻(高木政利社長)の養

鰻場は今期、いまだ1匹も導入できず空の池が目立つ。県シラス

ウナギ協議会の会長でもある高木社長は「(今の価格は)資金力のある大手ならいいが、小規模の養鰻場では採算が合わない。今後、確実にシラスウナギを確保できる見込みもなく、この状況が続けば廃業する業者も出てくる」と心配する。

シラスウナギの高騰に呼応するように、ウナギ料理店の仕入れ価格も過去最高を記録している。西都市小野崎の本



部うなぎ屋(本部講一朗社長)によると、同店の仕入れ価格は6年ほど前まで10キ当たり2万円前後で推移していたものの、不漁に転じたおととしには同3万円まで上昇。

シラスウナギの高騰で導入が進まず、空のままとなっている養鰻池。7日午後、宮崎市佐土原町下田島・高政養鰻

現在は最高で同4万5千円(1匹1100円)まで高騰している。

本部社長は「今でも利益はほとんどないし、店を畳むところも出てきている。今後、大幅に値上げをしないとけない状況も考えられるが、ウナギ離れが起これば元も子もないと苦しい胸の内を明かす。

県水産政策課によると、今期の採捕量は7日現在で185キと、過去10年で最低だった前期の422キを下回るペース。同課は「ウナギの全体量も明らかに減ってきており、今は手の打ちようがない」と説明。水産庁は近く自治体関係者や研究者を集めた対策会議を開く。